

パルテノン大規模改修・図書館本館の計画にあたって

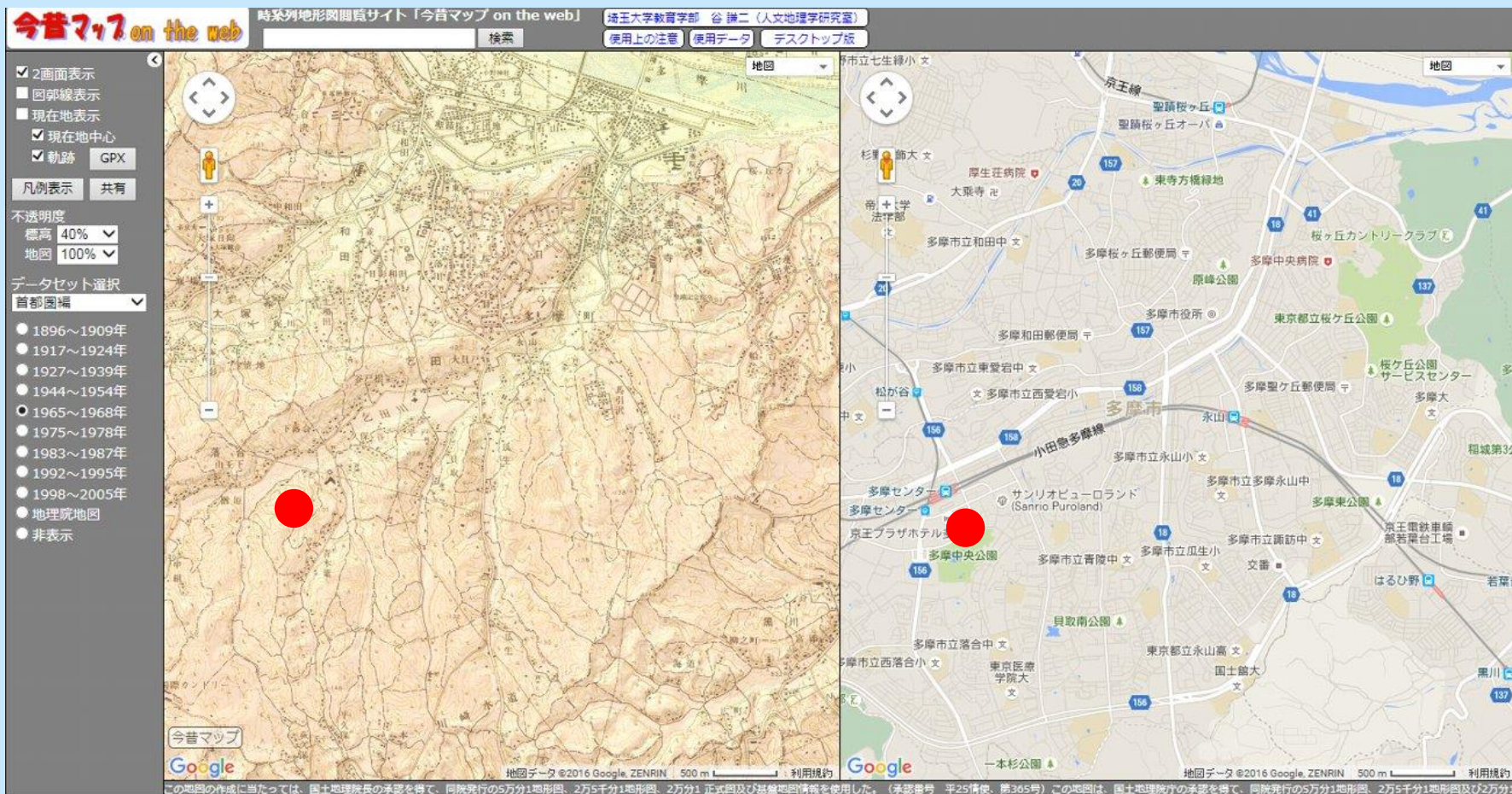
多摩ニュータウンの歴史（多摩市内）

1945年	終戦	→空襲等による焼失と住宅産業力の極端な低下
1955年	高度経済成長期に入る 年率平均10%の成長期（1973年まで続く）	→首都圏へ人口集中、住宅不足の偏在化
1966年	住宅建設法	→住宅総量の確保
1971年	多摩ニュータウン入居開始	→諏訪・永山地区から西の方向へ開発延伸 →2.5兆円の事業費投入（新住宅市街地開発法）
1974年	多摩センター駅営業開始	→センター駅周辺の開発始まる
1987年	パルテノン多摩竣工・開館	→臼井市長、文化振興の熱意
1990年	多摩市内の団地建設ほぼ終了	→センター駅周辺の業務系未利用地のみ残る
2000年	子育て施設の飽和・廃園	→やがて小中学校の統廃合へ連鎖
2010年	高齢化問題の顕在化	
2016年	新しい時代へ	



多摩ニュータウンの歴史（開発前後の地図）

1971年 多摩ニュータウン入居開始 →諏訪・永山地区から西の方向へ開発が進む
→2.5兆円の事業費投入（新住宅市街地開発法）



1965年～1968年

2016年

埼玉大学谷研究七資料より

多摩ニュータウンの開発（多摩市内）

フィンガー状の丘陵地帯の地形を生かす。尾根筋は住宅地に谷筋は道路へ。
住宅の供給を早めるため、表土を一度はがして造成した初期の開発。

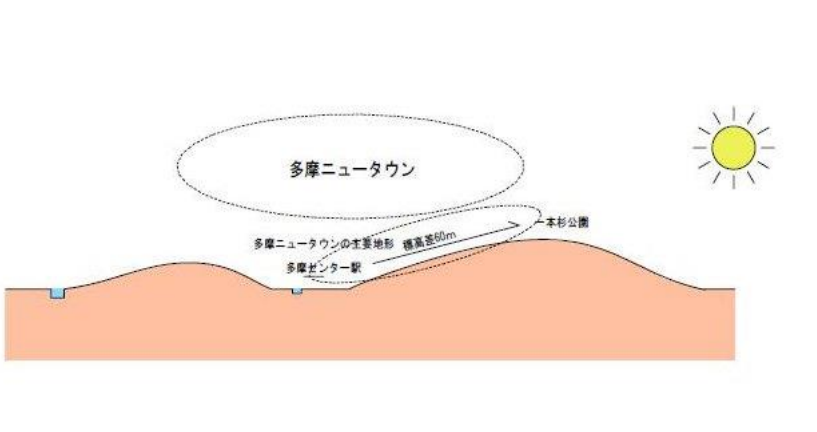


開発前のフィンガー状の丘陵地帯



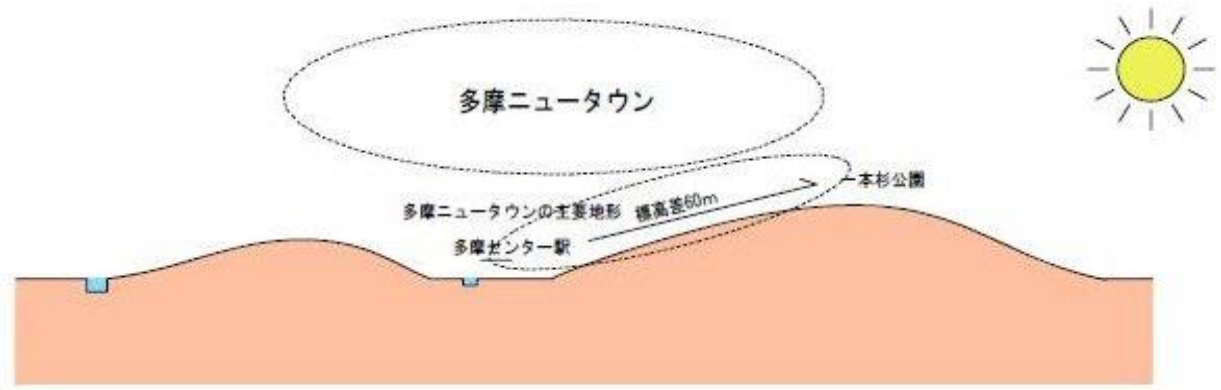
現在の多摩ニュータウン

多摩ニュータウンの地形の特色



NTの地形は概ね北傾斜

多摩ニュータウンの地形の特色



太平洋側
川は南東に流れている
日の出がきれい

日本海側
川は北西に流れている
夕日がきれい

